



学校だより

12月号 第410号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

こども SDGs17+1

～Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）を子どもの窓から～

校長 金森 孝子

朝夕の冷え込みが体にこたえる季節になりました。元気に校庭で遊ぶ子どもたちが多い一方、体調不良から保健室で休む子どもも増えてきています。11日（水）5年「江の島校外学習」と13日（金）6年「鎌倉修学旅行」は、お天気に恵まれ、あたたかな日差しの中で実施することができましたが、「秋の日はつるべ落とし」の言葉通り、あっという間に日が暮れ、学校到着後はやや肌寒くうす暗い中で解散式となりました。（高学年の保護者様には、子どもたちをお迎えいただきありがとうございました。）気温の低下、乾燥などに対する体調管理が求められる中でのコロナ第3波。新しい生活様式の継続に向けて気持ちを引き締め、特に朝の健康観察には細心の注意を払いたいところです。

先日、6年生が「総合的な学習の時間」において、「横浜市国際交流協会」（YOKE）の方から、直接SDGs（エスディーズ）について学ぶ機会がありました。SDGsは、2015年に国連サミットで採択されたもので、2016年から2030年の15年間で達成する17の目標を掲げています。最近では、カラフルな17のアイコンで示されたポスターを目にすること、マスコミで取り上げられることも多くなってきました。また、国や地方公共団体だけでなく、多様な機関でこの目標や考えが取り入れられ、具体的な取組として推し進められるようになってきています。大手スーパーやコンビニなどでのレジ袋有料化や「食品ロス」の取組などは、多くの人の行動を変えるきっかけにもなっています。

今回、6年生は、各クラス2時間の枠の中で、YOKEの方から配付された「こどもSDGsガイドブック」を参考にしながら、「みんなの未来を守るために、横浜の子どもとしてできること」について考えました。YOKEは、今年17の目標に加え、横浜らしい「+1」としての18番目「協力交流多文化共生」の窓をつくり、現在、子どもを対象とした普及活動をおこなっています。子どもたちは、YOKEにかかわっている大学生が作成した動画を視聴したり、サイコロを用いたSDGsゲームを楽しんだりして、自分の身近な問題としてSDGsをとらえ、関心を高めていました。講師の方からは「『誰もが安心して豊かにずっと暮らしていける地球にしていくには？

毎日の生活の中でどのようにすれば今よりみんなが笑顔になれるのか？』など、大人でも解決が難しい問題について考えるとき、子どもの立場で考えることが大切。ちょっと背伸びして自分のまわりの世界を窓から見よう。窓から見えた景色で、感じたこと思ったことを大切に、自分に何ができるか考えて小さな行動を試みよう。」とアドバイスをうけました。ガイドブックには、多くのなげない行動が示されており、日常の小さな行動が開発目標の達成につながることを説いています。わずか2時間の授業でしたが、一人一人が自分自身の行動について見つめなおす、よい機会となりました。きっと、心に深く刻まれたことでしょう。

SDGs10番目のアイコンは、「人や国の不平等をなくそう」です。コロナ禍、感染者や医療従事者に対する差別が社会で顕在化している現在、「自分ができる行動」として挙げられている「周りの人から自分から挨拶することを心掛ける」「自分がされていやなことはしない」

「家族一人一人が大切な存在と思える時はどんな時か考えてみる」など、意識して行動することが必要です。12月4日～10日は、第72回人権週間。SDGsの窓から、人権についてアクションを起こすことも一つの方法だと考えます。子どもたちへの働きかけを行い、学校全体の取組としての深まりを期待しています。

